

# 平成24年度 学校経営計画に係る自己評価計画書

石川県立翠星高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考 者
1 地域の環境問題に積極的に関わる意欲と態度を育成する。	校内の環境・美化に積極的に取り組む。	保健課 特活指導 各 年 次 各 分 掌 各 コース	毎年、環境・美化週間を実施しているが、十分とは言えない。学校版環境ISOに対する意識もややマンネリ化が見られる。	【努力指標】 校内の環境・美化に積極的に取り組んでいる。	校内の環境・美化に積極的に行動した生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さについて理解を深める。	全教職員 各 年 次 学 科 各 研 究 会	ふるさと石川の「里山里海」の現状や課題について、理解していない生徒が多い。	【満足度指標】 ふるさと石川の「里山里海保全」の大切さを理解する。	里山里海保全の大切さが理解できた生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	地域の環境保全のためのボランティア活動への積極的な参加を奨励する。	全教職員 各 年 次 特 活 課 各 コース 各 研 究 会	現在、研究会を中心に地域の環境保全のためのボランティア活動に参加しているが、学校全体では参加者が多くない。	【成果指標】 地域の環境保全のためのボランティア活動への参加者が増える。	地域の環境保全のためのボランティア活動に参加した生徒の割合は A 50%以上である。 B 40%以上50%未満 C 30%以上40%未満。 D 30%未満	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	月ごとの参加報告書を集計
2 学習意欲の向上と基礎学力の定着を図るとともに、進路実現に向けてキャリア教育の充実・強化に取り組む。	10分間の朝学習（翠星タイム）を実施し、基礎学力等を身につける。	各 教 科 各 年 次 教 務	昨年のアンケート結果では、少しでも基礎学力を身につけることが出来たと思う生徒は、73%であった。	【成果指標】 朝学習（翠星タイム）に取り組み、基礎学力を身につける。	基礎学力を身につけることができたと思う生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、内容、指導法を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	生徒の授業評価アンケートや研究授業、互いの授業参観等を通して、授業の工夫・改善を図り、「分かる授業」に積極的に取り組む。	教 務 科 各 教 科 全 教 職 員	昨年の授業アンケート結果では、「分かる授業」は全体の70%であったが、更なる改善に取り組む必要がある。	【満足度指標】 授業の工夫・改善で「分かりやすい」と満足している生徒が増えている。	授業が「分かりやすい」と満足している生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	3年間を見通し、各年次に応じたキャリア教育を積極的に展開し、全員の進路実現に取り組む。	進路指導 各 年 次 学 科	昨年度のアンケート結果ではキャリア教育が進路決定に参考になった生徒の割合は77%であったが、離職率を是正する観点からもさらに強化する必要がある。	【満足度指標】 3年間を見通した各年次のキャリア教育が進路決定の参考になっている。	各年次のキャリア教育が進路の参考になった生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	C、Dの場合は、内容、方策を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
3 社会人として必要な生活習慣や規範意識、マナー等の向上に取り組む。	登校指導や授業等を通して挨拶の習慣化に積極的に取り組む。	生徒指導 全 教 職 員 各 年 次	大きな声で挨拶ができる生徒は増加しているが、自発的な挨拶がまだ少なく、習慣化していない。（昨年度70%）	【成果指標】 自発的に大きな声で挨拶ができる生徒が増加している。	自発的に大きな声で挨拶できる生徒の割合は A 90%以上であった。 B 70%以上90%未満であった。 C 60%以上70%未満であった。 D 60%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	基本的な生活習慣の確立を目指し、遅刻や欠席者の減少に取り組む。	全教職員 生徒指導 各 年 次	遅刻者の数は昨年増加した。毎日の取り組みが残念ながら結果に結びついていない。	【成果指標】 基本的な生活習慣が身につく、遅刻者が減少している。	前年度に比べ遅刻者の減少割合は A 30%以上であった。 B 20%以上30%未満であった。 C 10%以上20%未満であった。 D 10%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	生徒指導課による遅刻者集計で報告
	登校指導、下校指導等を行い、交通安全指導に取り組む。	生徒指導 全 教 職 員 各 年 次	自転車乗車マナーが悪く、昨年度指導を受けた生徒が増加した。	【成果指標】 指導を受けた生徒が減少している。	前年度に比べ指導を受けた生徒の減少割合は A 30%以上であった。 B 20%以上30%未満であった。 C 10%以上20%未満であった。 D 10%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	報告をもとに、生徒指導課で集計。
4 部活動など課外活動への積極的な参加を促し、活力のある学校づくりに取り組む。	講演会や研修会などを積極的に取り入れ、部や研究会活動の活性化に取り組む。	特活指導 農 業 クラブ 全 教 職 員 各 年 次	1年次は部や研究会に全員加入としているが、2、3年次になると辞める生徒が増え、昨年度は積極的に活動した生徒は60%であった。	【成果指標】 部や研究会活動などに積極的に活動する生徒が増加している。	部や研究会活動などに積極的に活動した生徒の割合は A 80%以上であった。 B 70%以上80%未満であった。 C 50%以上70%未満であった。 D 50%未満であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	7月、12月に生徒を対象にアンケート調査を実施
	農業クラブ活動の活性化に取り組み、全国大会への出場者の増加に取り組む。	農 業 科 各 コース 各 研 究 会 農 業 クラブ	昨年度の農業クラブ全国大会への出場者は農業鑑定競技5名、平板測量競技3名、合計8名であった。	【成果指標】 農業クラブ活動が活性化し、全国大会への出場者が増加する。	農業クラブ全国大会への出場者は A 16名以上であった。 B 11名以上16名未満であった。 C 6名以上11名未満であった。 D 学校枠のみの6名であった。	C、Dの場合は、指導法、方策を再検討	全国大会の出場者数を確認